

☆私の意見

久々の神戸の秋に 思うこと

若林 和男

△洋画家・在ブラジル



豊かな秋！とかつての神戸っ子である私は、現在の身の上、パウリスタであることを一瞬なげくのですが、一方、またよ／＼という思いも同時に浮び上るのです。

ブラジルの一見、ちらほらの美術展の会場には、自分の目で確かめた作品を、自分のものにしたいという意志をもつた観賞者が、行きつ、戻りつの姿でそこにいるし、また、日本の様に確かな四季を持たぬ我が国では、季節のオシャレは、オシャレの出来る人達だけに意味があり貧しい人達には、一枚のジャケツやカーディガンが彼等の冬衣裳であるわけで、中産階級の多い、サンパウロやリオデジャネイロの市民生活は別にして、一般には、まことに質素な印象も受けれるのですが、仕事が終れば一応真直ぐ家庭へ帰り、家族そろっての夕食は、日本のよう

にバラエティに富んではいないでしょうが、充分の時間とボリュームを持っていて、テレビをつけっぱなしの食卓風景や、外で、男だけが、或いは、Oしばかりがおいしいものを頂くといった、イビツな風習は持たないよう

であります。

四、五年おきの帰神のたびに、我が故郷の街が美しくなり、街路の緑や、ビル街の花壇を見るたびに、大変嬉しく思います。しかし一方、演劇や、音楽会のよう、絵は、セットされた会場へ行って観るだけのものだと思つてゐるらしい市民が、ちょっとと上等のコケシ人形を買ふくらいの気持で、それを手に入れることを考え始めた時、或は、街を行く大方の紳士の一様に短いズボン姿が、御婦人のファッショントリ合いのとれる時迄、本

チャコとパパ

吉村 一夫△音楽評論家△

日本中の「久子」と名乗る女性の子供の頃の愛称は、ゴルフの樋口久子も含めて、まちがいなく「チャコ」である。日本人にも発音しにくいハ行とサ行が重なっているのだから、幼い廻らぬ舌では「チャコ」と自称するのはいたって当然である。大阪弁ではサ行を抜くことが多い。発音が面倒なので省略するのである。「へー、おま」「なんだ?」は「おます」「なんだす」の「す」を抜いたのである。

東京人が大阪の話になると「なんだ」とくる。「なんだとはなんだ」と憤然と座を立ち去るのである。「あんたカレーでっか、ほな、わてハイライにしま」という具合で、ハイシライスのシとスを抜く忙しさである。

辻久子のパパ、辻吉之助なる御人も言葉はひどいものである。アパート、デパート、プラットフォーム。プラット歩く所と思つてゐるらしい。「日本にはええエロニストがおらんからなー」と彼は嘆く。彼にいわせるとフルートニストであり、ピオラニストで全てがニスト付きである。そのくせバイオリンの先生となると滅法勘が鋭く有可能である。彼が手ほどきした日本の名バイオリニストは少くない。学生時代、ひょんなことから辻

吉之助弦楽合奏団のピオラを頼まれて、天王寺松が鼻にあつた彼の自宅を訪れたことがある。変骨者で、弟子は少く、貧乏のドン底にあつたが音楽については意気高く、口角泡をとばしての音楽談義が始まる。ここで幼いチャコとの対決が始まつたのである。バイオリンを奏ぐのに学校は邪魔や、と学校にもやらず、八才か九才で松竹座の幕間演奏に出たのもその頃である。怠けるといつて、夜半に数枚の下着を背中にくくりつけて家を追い出し、近所の人の詫で漸く家に入られた逸話もその頃である。パパは自らのバイオリンへの悲願を娘に託したのである。近所の人が「あれでホンマの親娘やろか」と疑うほどのきびしい試練を一人娘にぶつつけた彼は、心で泣いていたどうが、そんな素振りは見せなかつた。

チャコが十二才の頃、未だ小学生だったが、コンクールを受けることになった。東京行きの旅費がなく、平常から少し余裕があると五十銭玉を畳の間に落としておくのが△吉ちゃん△(私達は彼をそう呼んでいた)の貯金法だったが、それも尽きはて、彼の親友であるピアノの故金沢孝次郎氏に借金をするために、高下駄ばかり歩いて天王寺から、天下茶屋に行ったという裏話がある。その

頃私は夙川に住んでいて、コンクールの課題曲の楽譜を世話し、その打合せで拙宅に一人でチャコが来たことがあった。バイオリンを奏くと闘志が漲り、喰いつきそうな形相である。「今日はパパもおらんし、外のブランコで遊んでおいで」といふと「嬉しいわ」と、とび上るように夙川の提防にあるブランコに走って行つた。「矢張り子供だなー」と胸が熱くなつたことを覚えている。

コンクールは第一位、その上最初の文部大臣賞受賞という吉ちゃん父娘の最良の日であった。その最後の演奏会が日比谷公会堂で開かれ、彼女は少しへつたのだが、楽屋に帰った彼女は悔し泣きに泣き伏して、「あんなことしたらなんぼ文部



筆者(右)の誕生パーティで。左が辻久子さん(昭和30年頃)

大臣賞貰うても、なんにもならへん」と泣き止まなかつたそうである。すでに受賞が済んでのことである。十二才の小娘の怖いほどの執念の激しさには圧倒される気迫を感じるとともに、空恐ろしさに近いものを感じるのである。この激しい気迫は、親娘相伝のものらしく、吉ちゃんにも、「気骨」といえる頑固さがあつたが、ともに外面に表わすことは少く、節度を守る自制心の持主でもあつた。この親娘の逸話を集めると、楽に一冊の本になるほどである。いつも「久子はべっぴんになつたやる」と目を細くして自慢する吉ちゃんである。最初の奥さんを亡くし、その二人の遺子の中の長男を早く亡くし、全ての期待と祈願が久子一人に結集したのである。チャコはパパの生甲斐であった。チャコとは何回か演奏会を共にし、私が話して彼女が演じるのだが、そのギャラは、彼女の十分の一以上ではなかつた。演奏の前に、三十分もかけて音階を全弓を使つてゆつくり上り下りることを一度も欠かしたことがないのに、今でも感心している。なかなか出来ないことであり、立派なプロ意識である。

偶然に街頭で彼女に会つた。「クラブで卓話を頼まれてしてきたんや」という。「音楽の話したんか」「いいや禅の話してきたんや」「忙しいのに、ようそんな本読むひまがあるな」「いや、読まへんねん。日本中のいろんな所でいろんな人の話聞くやろ、それを自分流にまとめた耳学問やねん」驚くべき才能である。うるさ型の財界のオエラ方が「さすが一芸に達した人は、ええ話するなー」と好評である。耳学問こそ、目学問優先の日本人に欠けているし、特に音楽では最も大切である。

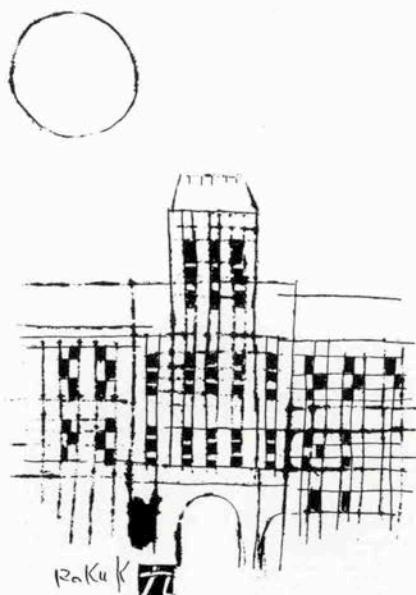
元町ストーム

甲南学園と神戸

△3▽

和田 邦平 ▽甲南大学教授▽

え・貝原 六一



最近東京をはじめ大阪、名古屋など各地で行われる「寮歌祭」に参加して旧制甲南は持ち前のスマートさを持って声価を上げている。昭和初年の甲南寮は、寮といつても小人数で、寮祭などはなかった。しかも甲南では下駄をはいて校内に入つてもお目玉を喰つた。これは平生先生の主義に共鳴した生徒監大倉本澄先生の方針であった。

ところが年一回恒例の「浪甲戦」の対抗野球戦が宝塚球場で行われる日、勝敗に関係なく、応援団の有志は大挙元町へ繰り出すのがならわしになつていた。いわゆる元町ストームである。

浪甲戦は、一高対三高、あるいは早慶戦にも似た好敵手ぶりを發揮、多感な男の子等の血潮を湧かせたものである。当日は阪急沿線の各駅に「両軍応援団総出動」という文字の大きなポスターが貼り出され、阪神間の初夏の風物詩として年中行事の一つとなつていた。

当時の野球部のOBには、たいへん失礼なことだが、甲南の野球はラグビー・テニスの校技と異なり、高校一流クラスとはいえなかつた。でも当日は対抗戦にふさわしく興奮した応援合戦に呼応して張り切つたプレーが行われた。応援団といつ

ても組織だったものではなかつた。リーダー格は、ちょうどシーズンオフのラグビー部員がつとめた。キャプテンが団長ということで、生徒総代（級長）が副団長をやれといつて、私も昼夜休み、スタンドの練習に旗を振つた記憶がある。全校生徒の大半が応援練習を積んで、岡本駅から団体貸し切り電車で、宝塚南口へ、そこから遠征応援歌を歌いながら隊伍整然と宝塚球場へ繰り込んだのである。

昭和十年六月十五日“浪甲戦”は5A対2の戦



対浪高野球戦の夜に繰りだした元町ストーム（昭和12年6月）提供・仮家達朗氏（旧制13回理科）



和田邦平

勝で、神戸へ繰り出したストームの群れは、応援歌・逍遙歌・勝利の歌を歌いながら怒濤のように踊り回つた。そして飲み屋の前に大気勢をあげたのである。これがいわゆる元町ストームの最初であった。

翌十一年と翌々十二年は連続して完敗したが、両軍の応援団は東西に分かれ、浪高は大阪心斎橋で、甲南は神戸元町で、ストームだけは年々盛んになり、残念ストームだけに、悲愴感があり、青春の血をたぎらせ、発散させることには充分すぎるので、高井宗官氏が近所の寺から借りてきた太鼓を打ち鳴らし、元町いっぱいに広がったストームの群れは思い思いに意氣と熱とをたぎらせた。今日でいえば、無届けデモにもあたるわけであるが警備の警官など一人も出動せず、まことに秩序整然？ 一面まことにのどかな時代であった。

昭和十二年のストームの写真を見ると、現在は会社の社長・重役、また大学の教授、病院院長におさまっているOBたちのわかき日のおもかげや、とりわけ何人かの戦死されたOBの元気な姿が拝されて、感慨無量である。元町のスマートな復興ぶりと合わせ考へる時、かつての甲南に学んだ神戸つ子の反骨ぶりがなつかしい。

大正8年生れ。甲南高等学校文科乙類卒。京都大学文学部卒。現在甲南大学文学部教授。神戸市ほか各都市文化財審議会委員を歴任し、現在、兵庫県芸術文化化財保護審議会委員、兵庫県芸術文化委員幹事などをつとめる。

□ある集いその足あと

文楽同好会

「暁会」

渡部 暁子

（暁会主宰）



吉田義助さんの芸談を聞く会（74.8.24 国際会館会議室にて）

暁会が発足した日、実ははつきりしない。私たちが初めて文楽を観たのが、昭和44年1月、大阪・朝日座でのことであった。日頃仕事で接する外人さん達が、能・歌舞伎・文楽を意外によく知つておる、私たち日本人が日本の古典芸能を知らなさきることが、朝日座まで足を運んだきつかけとなつたのである。

「要するに人形淨瑠璃がどんなものかさえ分ればよく、文楽を観た

事で接する外人さん達が、能・歌舞伎・文楽を意外によく知つておる、私たち日本人が日本の古典芸能を知らなさきことが、朝日座まで足を運んだきつかけとなつたのである。

「要するに人形淨瑠璃がどんなものかさえ分ればよく、文楽を観た

優などは似ても似つかぬ異質な魅力だった。人間でもない、人形でもない（娘心）そのものが着物を着て熱っぽく動いていた」この感動が私たちを文楽へ引きづり込んだのであった。

以来、人に会えば文楽、文楽と勧誘。これが暁会の生まれた時である。だから「文楽同好会を称してはいるが、世の同好会のように文楽好きが集つて結成した会ではなく、その呼び方が意味するものとは少し内容も性格も異なり、本來ならば（文楽の宣伝普及、並びに同好会に至るまでの過程会）とも呼ぶべきもの」なのである。

客席から観ていた私たちが、初めて樂屋に足を踏み入れた時が、桐竹紋十郎さんとの出合いであった。紋十郎さんとお正月公演にはできるだけ多くの人を誘つて来て、と約束したものの、なかなか思うように集まらない。紋十郎さんが文化功労賞受賞直後のお忙しい時、その人集めのために山田五十鈴さんが出演する映画「生きてい

ことがあるという既成事実だけが必要だった……。文楽なんて大きさをぎする程のものではないな」と思ひながら観ていた。ところが、「れん口からぞいた梢の上に視線がおちた時、私は思わず息をのんだ。それはそれまでにあこがれていた宝塚のスター達や映画女

の娘心がおちた時、私は思わず息をのんだ。それはそれまでにあこがれていた宝塚のスター達や映画女優などは似ても似つかぬ異質な魅力だった。人間でもない、人形でもない（娘心）そのものが着物を着て熱っぽく動いていた」この感動が私たちを文楽へ引きづり込んだのであった。

この日から私たちの熱心な勧誘が始まった。その結果正月公演の申込みが92枚。しかし、これも紋十郎さんのおかげである。というのは、この公演に限り、昼の部と夜の部の幕間に紋十郎さんご自身の人物解説がつき夜の部終了後には舞台の構造を見せて下さるというおまけつきだったからである。

次に職場を同じくするノルウェー

の人たちにもこの文楽熱が感染した。文楽に関するすべてのことを行なうとして、解説をプリントし、解説した。

このようにして暁会のスタート時代に、思いもかけなかつた暖かい手が私たちを守つてくれた。以後、現在第12号になる機関誌「あかつき」の発行、各公演の後での合評会などを開催しながら歩みである。ともあれ、文楽を通じての人との結びつきの集合、地道な歩みは会員たちの奉仕で成り立つてゐるのである。

（機関誌「あかつき」より）

きものと細貨

あんざらを



神戸

本部・仕入部
さんちか店

神戸市東灘区青木五丁目一五十九
市街地改造により工事中
昭和五十二年末完成予定
電話〇七八一四五二九〇(代)
電話〇七八三三二一七〇〇

東京
銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八一二〇
(四階きものコア) 電話〇三一五七三一五二九八(代)
渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一
(五階和装名家街) 電話〇三一四七七一三四〇九(直)
日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九一二
(四階和装名家街) 電話〇三一二一一〇五一(代)
池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋一丁目二八二
(四階きもの小路) 電話〇三一九八七一〇五六一(直)

刀劍美術董
古董書画



平戸焼薄端 ￥350,000

鑑定 買入
刀劍研磨その他工作

一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀古董 美術董
元町美術

TEL 078-351-0081

純白無垢



ドイツ菓子 *Fachheim's*
ユーハイム

本三宮店 三宮生田神社前 TEL (331)1694
さんちか店 三宮大丸前 TEL (331)2101
三宮地下街スウィーツタウン内 TEL (391)3539

わたし、いつもフレツシユ！

- 〈営業品目〉
- 高級服に………スベシャルクリーニング
 - ゆきどいた…スタンダードクリーニング
 - 雨・シミをほじく………リペール加工
 - ぬれない・汚れない…スコッチガード加工
 - 消えない折目フレス…エバークリース加工
 - 出張サービス…カーベットクリーニング
 - 毛皮・皮革・キモノ類…高水準クリーニング



あなたのファッションをFRESH UP!
ニシシマ

神戸市灘区記念町1 ☎ 078(851)2440

山手店 三宮店 熊内店 宝塚店

浮き防波堤

諸岡 博熊

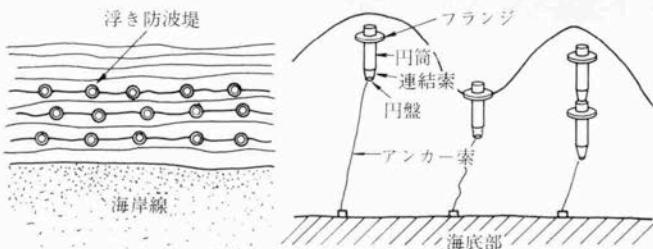
（神戸市企画局参事）

沖合から押し寄せる波のエネルギーを弱めて海岸地帯をまもろうとするものに、防波堤がある。

これは、海底から石のマウンドを積み重ねて、上部に、コンクリート製のケーランを置き、さらにブロックを積んだ形式をとる。ところが、海底部が軟弱なところでは、この方式が割高となり、難なところすらある。

そこで、海底に有孔パイプを布設して、有孔部から空気のアワを噴出させ、波浪エネルギーを吸収しようとする実験が試みられている。これは、理論的には可能なのだが、海水による有孔パイプの腐蝕や空気の送り方その他経費等で完全な実用化に至っていない。

アメリカで最近登録されたパテンントのなかに「浮き防波堤」があつたので紹介することとする。実用化はみていないが、浮きの余剰浮力を利用するユニークなものである。



浮き防波堤 左は上から、右は横からみたところ

各個の浮きは、海底にアンカーされていて、これを多数に並べて波浪エネルギーを吸収しようとする。その構造は、下端の開放された茶筒のような円筒を一つまたは二つ。さらに、円筒を最下部にぶらさげて、全体をアンカーする。なお、円筒の上部には、帽子のツバのようなフランジがついている。

円筒と円盤とアンカーは柔軟性のある連結材で結ばれているので波浪時、上下移動が可能である。

波の山と谷がこの浮きを通過するとき、各円筒内、円筒相互間、

および、円筒と円盤間が相対的位置の変化に起因して水量が変動する。その結果、水平方向の流速の水波成分が発生する。したがってその反射波と反流はその速度の水平成分を減小させる。ところが、浮きは、上下方向の移動が制限されているので、波の垂直成分も減小させることとなる。同時に、

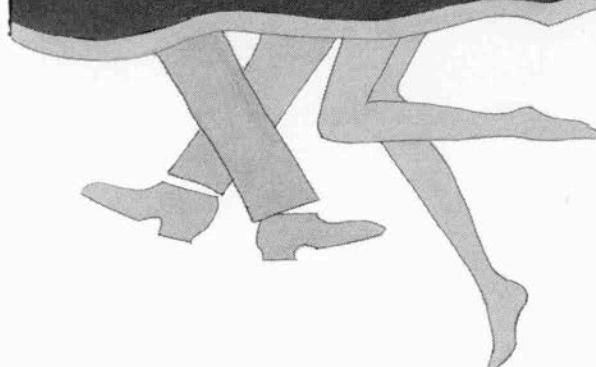
浮きの上下制限の結果生ずる空所を波浪の運動方向に沿って形成された水流が満たすことになって、波浪の垂直速度成分を減小させる。その結果全体として、波浪の運動エネルギーとその高さは減小することになる。

浮き相互間の距離は、これに作用する力と予想される波高との関係を計算して決められるが、波高が、一・五メートル未満の場合には、その距離は、一・五メートル以内にする必要がある。より大きい波高では、この距離を十五メートルまでに増大させることは可能である。

なお、浮きの大きさは、波高に応じて変わるが、例えば、一・五メートル未満の波高では、高さ四・八メートル以内、直径二メートル以内、容積十三立方メートル以内とされている。さらに、この場合のフランジの直径とすの垂直寸法との比は、二〇対一としなければならない。

神戸・神戸・神戸

淀川長治 (映画評論家)



ユーハイムでちょっとだけビスケットが買った
それとそれとそれとといつて七個くらい買った
紙の袋に入ってくれた。
フロインドリープへ行つてチョコレートもまた
ちょっとだけ。これも七個くらい。紙の袋だ。
これが午前十一時ごろだった。それから市電で
新開地の松竹座へ行く。

これは昭和の初め。私の
の中学生時代。ユーハイ
ムやフロインドリープで
アレとコレなんてビスケ
ットやチョコレートを、
その小さなのを七ツ八ツ
と、それくらいだけ買え
るところが神戸だった。
五個買つても小さな袋に
入れてくれた。

×

生田筋でエヴァンタイ
ユという店を私の家がや
つていた。姉がこの店を
デザインし、仕入れもや
つていた。昭和の四年ご
ろである。

エヴァンタイユとは(扇)のこと。神戸は扇港
と呼んだのでそこから店名を思ついた。神戸の
小磯画伯か詩人の竹中先生かに御相談してつけて
いただいたと思う。
外国美術品店なので、フランス語で(ラール・
エヴァンタイユ)と名づけたのだが、いつのまに
かひとつちでいえる(エバンタイ)と呼ばれて御

ひいきを受けた。

×

この店で私も足かけ二年働いたが、フランスのシャンデリヤやチエコの大きなカット・グラスが売れた。ペルシャのカーペットもお買いになる。たいがい阪神間のお屋敷へそれらはおごそかにようとけしたが須磨の方へもおとどけしたことも多い。ゆたかな神戸だった。

そんなとき、こちらも気が大きくなつて弘養軒のビフテキを電話で註文した。

店の者みんなに一人まえ五円のビフテキは當時としてはぜいたくだった。なにしろ今で計算すると十万や二十万や五十万円の美術品が売れたのだから、おとどけをすませたあとこちらも気が大きくなつた。

その弘養軒のビフテキは出まえで持つてくる。ビフテキの出まえ。考へてもいやらしい……と思ふのは素人考へでこの出まえはコック場からアッという間に目のまえに……というホカホカの超大ビフテキだった。

大きな皿に山盛りの野菜をあしらつたその中央に、盛りあがつたビフテキのつやつやと光つたその香りがブーンとただよつた瞬間は、超豪華の五円その大金が高いとは思えない。私はこの弘養軒のビフテキを（コックさんの芸術）として味わつた。

×

神戸で私が楽しんだひとつに石鹼を集める楽しみがあった。メリケン波止場へ行く手まえの海岸通りにオリバー・エバンスとタムスン薬局がある。ここには珍らしいハミガキや石鹼がある。コ

リノスという歯みがきや名も今は忘れたが香りの上等な石鹼があつた。

いま思うとこれらはアメリカやイギリスのありきたりの石鹼やハミガキであつたのだろう。

けれどもその石鹼やハミガキを包んだ外国の包み紙にブーンと外国の香りを嗅いでいい気分になつた。大正の半ばのころだった。

×

その海岸通りのレインクロフォード。ここは西洋の当時舶来（はくらい）と称した高級雑貨店。のちにエバントタイを持つようになったのもこのレインクロフォードへのあこがれがあつたゆえである。

×

けれども神戸のハイカラはかかる地域からだけではない。布引の滝へ行くその滝の茶店にもすでにこのハイカラはしみこんでいた。

コーヒーカップ、ティーカップが美しかつた。コップでなくカップという感じだった。そういう色のカップのそのふちが細い金色。スプーンもピカピカ光つてよくみがかれていた。コーヒーやその茶店のおばばにたのむとデミタスでつかと聞かれた。この滝のかみ手にツエンティ・クロスと称する二十の渡り石のあるけい流がある。毎朝この散歩を日課とする西洋人たちがこの茶店に立ちよつて一服するうちにコーヒーカップやスプーンやティー・セットをこの茶店にプレゼントしたのにちがいない。

×

神戸駅のそばにチヨコレート・ハウスというビフ・カツのすぐくうまいレストランがあつた。チ

ヨコレー・ハウスというからには喫茶店とまちがわれそうだが、すでに有名で誰もがヨコレー・ハウスでカツを食いにゆこかといったものだ。このナイフとフォークがまた立派だった。そのナイフはふかふかと厚いカツにちよいとふれただけでスカツとカツが切れた。ヨコレー・ハウスとはこのマッヂ箱のごとき小さな洋食屋の表それに両わき、うしろ、全部がヨコレー色のペンキで塗られていたからである。そしてその板敷きの店に靴音たててはいるやゝへーッ、なにをおたべでつか」と小柄なおばあちゃんが前だれ姿で出てくるのがまた嬉しかった。

×

エバンタイをやつているとネクタイ一本でもお屋敷にとどけてくれと申されることがある。ネクタイ一本くらいと思われようがフランスでデザインしてイギリスで製作したそのノックスのネクタイはかんたんな洋服一着くらいの値段だったからである。フランスの美術ガラスやイタリアのミラノの色ガラスの花びんやそれらはもちろんおとづけ（配達）することになる。たいがい車で見えられるのだがその車はこれから食事に出かけそのあと松竹座で映画というわけだからその車には品物をお願いできにくい。そこでエバンタイもアメリカ・オースチンとクライスラーの二台を持っていたのだが、これが遊びすきの姉の遊び仲間と姉の遊び道具となつて夜の阪神間のドライブ・ウェイの車の競争となる。

いまではえらいお目だまを食う悪い遊びなのだが昭和三年ころは夜も十時となるとその阪神間を走る車は十五分ごとに一台みたいにしんかーんと

なる。そこを神戸の良からぬ連中が自家用車で競走をするのだ。呑気な時代であつた。モガとモボト・時代である。

×

兵庫の傘屋のおっさんが店で傘をはりながら奥に向つて呼びかけた。“寒むいさかい”ブランケット持つてきんか”。

“ブランケットのことである。つまり毛布だ。たいがいこれは日本語のケットという言葉になつて今日は寒いからケットをきて寝ようというあれがブランケットからのケットのこと。ところが兵庫のカサ屋のおっさんがケットといわいでブランケットというところに神戸の面白さがあつた。

×

元町の三星堂は私の中学三年時代のたまり場。よく行つた。ここ二階が喫茶店でここで紅茶を註文するのが楽しみなのだ。銀のティーポットそれに小皿に二枚のレモンの切つたのがつく。シユガーポットも銀のピカピカ。一人まで二杯ときには三杯も飲めるのが嬉しいのである。ポットつきなど昭和二年ごろにはハイカラそのものに思えたものだ。

×

神戸というよりも兵庫といったほうがぴつたりのその西柳原で幼年時代を送つた私は、私の筋向いの西田政治さんの家に毎日のように遊びに行つた。この政治さんの末の弟と私は遊び友だちだったからである。

しかし私がそこへ遊びにゆく目的は私の遊び仲間と遊ぶのではなく、実はずつと年上のその政治さんがアメリカからとつてゐるニューヨーク・タ

イムズみたいな外国新聞の写真を覗くことだった。それにはいろんな映画や演劇の写真が出ていた。

小学生の私はその西洋の新聞に嗜りつくようにして写真を見たのだが、大正の七年というようならに兵庫の下町にアメリカの新聞のあることがやっぱり神戸だ。

×

六甲のゴルフも子供のころ連れてゆかれてあの白いタマを小さな手でさわりクラブを握ったこともある。小学二年のころだ。サイダーではなく、ウイルキンソン・タンサンという砂糖ぬきのサイダーというものもここで知った。

私の家には週二回明治屋が廻ってきた。元町から兵庫の西柳原にまで註文を聞きくる。ネットスル・チョコレートもそれで知った。コイン形のそれが筒の一本の棒につめられた赤いピカピカ光った紙に金文字のネッセル・チョコレート。幼年時代それを楽しんだのも神戸。

×

活動写真が日本で最初に公開されたのも神戸。明治二十九年（一八九六）。新しい文化を神戸はすべていち早く吸いとった。聚楽館は私に美の洗礼をした。大正十一年のアンナ・パブロワ一座のバレエ。聚楽館の入口両わきに“ひん死の白鳥”“どんぼ”的大きな二枚の外国製ポスター。私は足が釘づけとなつた。神戸の聚楽館でパブロワや

デニショーン舞踊団を見得たことで私は神戸に感謝したい。

×

そして新開地だ。東京の浅草でアメリカの活動写真を見ることと神戸の新開地で見ることではだいぶその感じがちがつたと思う。パール・ホワイトの「鉄の爪」が「てつのつめ」ではなく神戸では「アイアン・クロウ」で一般的の話題となつた。大正十三年ごろ映画館の伴奏が気に入つてはねたあとその演奏者をぜんぶ午後の十一時といふのに自宅に招いて洋室の広い客間であらためて演奏をおねがいしたという映画好きもいた神戸。

×

海岸通りのあき地にアメリカの『ヒップドローム・サークัส』が天幕を張つた。マチネーではクラウンたちの芸が子供たちを喜こさせ、夜ともなるとこうこうたるライトの光の中で本格的なサークัสが演じられた。場内の半分は外国人たちで場内の売り子もアメリカ人だつた。大声で呼びかけるコールカフェー。それが冷やしコーヒーと知つたのもそのときだつた。大正十二年ごろだったと思う。天幕の中にまでその夜は神戸の港の海の匂いがした。



こんにちは赤ちゃん



小泉花子ちゃん/西宮市高塚町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大枡町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

幼児歯科 小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分

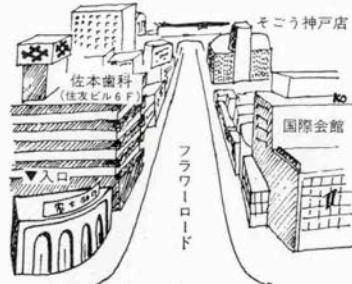
金曜日 午後1時30分

(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39

TEL (078)331-6302~3



優雅な時代やで 懐かしいあの頃

出席者
新谷 大西 塩路

秀雄
義孝

彫 刻 寒
(神戸タグ協会会長)
(大丸神戸店)

陳 德仁
(神戸中華総商工会長)
デヴィッド・ハツラー
(D・ハツラー商会)



★最高の店が並んだトア・ロード

大西 このあいだ小松益喜さんと今まで小松さんが親しんできた北野町なり居留地なりの異人館が、今どれだけ残ってるんだろうといふ話をしたんですが、もう三分の二以上は消えてしまってるんですね。

新谷 建物はなくなつてしまつていい方は通用してますね。それ北野町とか海岸通りとかの名前が残つてますね。元町もそうです

し、トア・ロードも昔はトア・ドーロと呼んだ時代があつたりしてね。

塩路 トア・ドーロは戦争中でしたね。戦争中は英語は困るって、ロードがドーロになり、トアも漢字で東亜ってなつてましたね。

新谷 そんな風に今でも名前が残つていると、その名前から郷愁を感じますね。トア・ロードの山手の方を見ると大きなトアホテルがあつて、あの真っ赤な屋根はとても印象的でした。

新谷 このトアホテルとオリエンタルホテルを結ぶ一直線の路、トア・ロードがまた楽しい路でしたね。ハイクラスのセンスの通りで床屋さんにしても、パン屋も肉屋も最高の店がずらつとならんでいました。非常にエキゾチックでし

新谷 焼けたからね。

塩路 なかなか立派な、大きなホテルでしたね。しかも戦争で焼けたのとちがうんですよね。戦後、進駐軍の看護婦の宿舎になつて、アイロンのかけ放しから火事になつて焼けてしまつたんですね。

新谷

大西 トアホテルは今、神戸クラブになつてますね。

大西 今の建物とはちがうんですけど居留地つて言葉も今は余り使われなくなりましたがそれでまだ居留地あるいは元居留地つていい方は通用してますね。それ北野町とか海岸通りとかの名前が残つてますね。元町もそうです

たね。

陳 道幅がもつと狭くてね。それだけに親しみがありましたね。

新谷 階段をトントンと上つて入つていく店なんか、とても立体的な感じで、ちょっと日本ではみられないような雰囲気を持ってましたね。

塩路 トア・ロードの真中あたりにオール・セント・チャーチがあり



昭和7年頃の南京町

さんありましたね。

大西 洋服屋さんはたいていが中國の人みたいでしたね。

ハッター 今でも多いですよ。

★ハダに合った南京町の雰囲気

新谷 南京町まさにチャイナタウンって感じでしたね。

塩路 トア・ロードの真中あたりにオール・セント・チャーチがあり

物で、何となくハダに合つてたみたいたい。

塩路 トアホテル付近など、山の手の外人さんもみんなたいていここまで買いに来てましたね。

陳 船からのお客さんも多かつたですよ。

大西 ▲陳さんは博愛酒家の息子さんで、なかなかハンサムな坊ちゃんやんやつたな▽つてこないだ人と話をしてたんですけど、私もよく行きましたよ。



新谷秀雄氏

陳 あの頃53軒あったのが、今は20軒が残っているだけですね。

新谷 服装にしても中国人の人は中国の服装をしてましたね。はきものも。

大西 南京町にはいいものが安く

りました。とつもきれいでしたね。今の税務署の位置ですね。

ハッター それとビル・ファーマーシーって薬局がオール・セント・チャーチのちょっと下の方にありました。今のアメリカン・ファーマシーのあたりです。

大西 何でも気の利いたもの、ハイクラスなものは、トア・ロードにあつたんですね。

塩路 中国人の洋服屋さんがたくさん



大西雄一氏

塩路 民生は戦後の建物ですね。

新谷 元町の明治屋の向いの路地を入つたところに杏香楼って中華料理屋がありました。

塩路 あれはもつと南の方とちがいましたか。

陳 確か海岸通りでしたね。洋館でね。

ハッター えらい古い家でしたねえ。(笑)

大西 割合安くてね。学生の頃良く行きました。

ハッター 確かによく流行つてま

したね。食事もけつこう美味しかったですよ。

新谷 その当時ね、杏香楼にしても第一楼にしても、つまみの皮なんかで床がとても汚れるんですね。△きたないなあ▽っていうとへきたないのが値うちや、それだけ流行つてる▽っていうことなんですね。だからどんどん床に捨てて下さいっていわれたことがありますね。



元町のにぎわい 昭和初期

で、しばらくしてから大丸の南側に移ったんです。英國系の百貨店ですね。ピクターレコードを買うにはここしかなかつたんです。

新谷 オリエンタルホテル、商船ビル、明海ビル、あのあたりには柳が植わっててね、道には木レンガが敷いてあつた。



陳 德仁氏



塩路義孝氏

とで赤レンガに変わったんです。大きな木レンガで、その黒い歩道がとても感じが良かつた。やわらかいので、歩くととても感触がいいのね。だけどすり減りますから雨が降るとそのすり減ったところに水がたまつて困りましたね。

塩路 今の大丸の駐車場のところにオリバーベンス商会がありました。その裏が、明治の中頃、ラフカディオ・ハーンが記者をしていたといわれる英字新聞社のジャパン・クロニクルがありましたね。戦争で焼けたんでしたよね。

★昔の神戸は西高東低だったけど

新谷 当時、上筒井に関西学院があり、そこから今の国際会館の通り、そのころ滝道つていってましたけど、このあたりがちょっとした繁華街でしたね。

大西 上筒井には、高級のバーがね、神戸でも一流のバーが集まつてましたね。

ハッター 今は加納町の交差点にあって、歩道が燃えてるんです。

新谷 木レンガってのは、油をしみ込ませてるので、ある時火事があって、歩道が燃えてるんです。

それで、木ではダメだつていうこ

ね。

大西 アカデミーがバーの最初のものなら、今の形での喫茶店の始まりが、元町の三星堂の二階ですね。その頃、元町の西の方人が多くて、たくさん的人が集まつくるんだが、その人たちがいわゆるたむろするに便利なところがな

★面影消えてしまった居留地

ハッター レンクロフォードってのが印象的でした。

塩路 レンクロフォードは、一番はじめはユニオンチャーチのとなり、今の三菱銀行のところにあつ

り、今は、元町の西の方人が多くて、たくさん的人が集まつくるんだが、その人たちがいわゆるたむろするに便利なところがな



デヴィッド・ハッター氏

かつたんですね。それでできたのが、この三星堂で、トイレが付いていた。その当時にすればトイレがあるのが珍しいわけですね。新谷 そういうえば元町にはなつかしい喫茶店がたくさんありましたね。赤マントで有名な画家の今井



昭和初期の加納町交差点（左）と三宮駅南（右）

にユーハイムがありましたね。木造の。ハッター そのとなりに弘養軒っていうレストランがありましたでしょ。大西 弘養軒のテキがね、あの当時、二円だったか、三円だったかとにかく早く弘養軒のテキが食べられるようにならんといかんと、若い頃思つてましたね。（笑）当時の二円、三円っていうのは大金ですからね。

ハッター 伊勢エビも有名でしたね。

大西 なかなか美味しかった。

塩路 味まで覚えますか。（笑）

ハッター 今だったら一万円はするんじゃないかな。

大西 その西の方、三宮神社が神戸のひとつボイントになつてましたね。

塩路 三宮神社の西横手に共同便所がありましたね。

一同 あつた、あつた。（爆笑）

塩路 こないだフトしたことであの便所がうつってる写真を見たんですね。洒落た便所でしたよ。

陳 たいていの人が利用してますね。（笑）

新谷 オールナイトの飲み屋が集まつてましたからね。

塩路 三宮神社の境内は夜通しや

ハッター 映画館もありましたでしょ。

塩路 確か三軒あった。

大西 連鎖劇つてのをやつてました。優雅な時代や。（笑）

それでもあの頃の盛り場は西の方、新開地や福原、楠公さんの西の方はダメでしたね。その中で東

門筋で、頑張つてのがこの三宮神社の境内とさつきの上筒井付近だけだったんですね。

塩路 そうでしたね。多聞通りの和家具もひとつボイントでしたね。

大西 多聞通りの南側、古湊のあたりね。ここが和家具の市場だったんですね。

ハッター 多聞通りへ行くと、まざんの家具もあるつてんで、わざわざ行つてましたよ。

大西 その頃の多聞通り、有馬道がひとつシヨツピングセンターで、元町通りにかけて誓文払いって大売り出しがありましたね。年に一回、十二月の下旬に。

新谷 今のバーゲンセールだけど元町あたりの商店街が暮になると一齊にやるんですね。欲しい物があつても誓文払いの日まで待つてたりしてね。（笑）

塩路 なかなか古き良き時代でしたよね。

朝路がやつていたランクルブルーそれに音楽喫茶のウイーン。大丸前にあつたラジレイロ。それにパウリスタがモーニングサービスをやつたのもなつかしいですね。そして、生田警察がまだ三宮警察といつてた頃ですが、その前

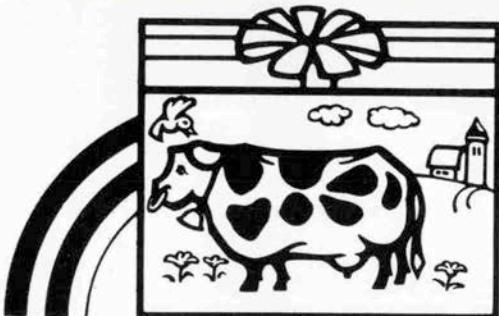


神戸っ子に愛されるエレガントな毛皮の数々

チンチラ

神戸・三宮センター街東入口スタイルパレス3F
TEL 078-391-4457

フレッシュな製品をつくり
おとどけするのが
私たちの役目です。



取扱品目
牛 乳 ソフトミックス
生 ク リ ー ム コーヒー用クリーム
ケーキ用クリーム 各種アイスクリーム

株式会社

六甲牧場

神戸市灘区篠原6丁目1-25
電話 神戸(078)801-6000(代表)